「令和4年度 初期日本語指導講座」を開催しました

対面での開催は約３年ぶりとなった「初期日本語指導講座」。県内各地域の日本語教室で活動されているボランティアを対象に、２月６日（月）～２月27日（月）にかけて実施しました。

この講座では、講師に岐阜県地域日本語教育コーディネーターの安藤郁美氏と、名古屋大学大学院生の村田竜樹氏を迎え、日本語入門レベルの学習者と取り組むことができる、「対話型」の教室活動についてご紹介いただきました。参加者には、前半部で「対話型」の活動の概要やその進め方について体験を交えながら学び、後半部では、各所属教室での「対話型」の活動の活用方法について考え、共有していただきました。

「対話型ってどういうもの？」と思われる方もいらっしゃると思いますが、「対話型」の活動では、従来の文法積み上げ式の学習とは異なり、対話を通してお互いのことを伝えあう中で、日本語を身につけます。活用方法について考えるにあたっては、愛知県作成の学習教材「はじめての日本語教室」を使用し、講師によるデモンストレーションや実際の教室の様子を動画で観て、理解を深めていただきました。

全４回の講座の中でも、特に参加者から好評だったのは、講座第２回でご紹介いただいた、学習者の立場を擬似体験する動画でした。動画では、話し手が中国語で、全く同じ内容の自己紹介を４つのパターンで行いました。パターンが変わるにつれ、話し手の工夫（話す速度やジェスチャー、写真の提示等）もあり、中国語を学んだことがない人でも話し手が伝える内容の多くを理解できるようになりました。

参加者からは、「分からない言葉に接した時、どうすれば分かる／伝わるかが分かった。」「最後の映像では、自分も中国語が話せるかも、と思った。学習者もそんな気持ちになってくれるといいなと感じた。」という声がありました。講師からも、「伝える手段は言葉だけではないので、理解するために様々な手段を用いて伝えることを大事にしていただきたい。」という言葉をいただきました。改めて、「伝える工夫」の大切さを再認識できたのではないでしょうか。

今回の講座は対話ベースだったので、参加者自身も対話を通して情報／意見交換を行い、大変実りある時間になったのではないかと思います。教室によって活動内容は様々だと思いますが、ぜひ、講座で学んだ内容を所属教室に持ち帰り、役立てていただければ幸いです。

▼講師による「対話型」の活動のデモンストレーション（トピック：「自己紹介」）

実際の「対話型」の活動の様子をビデオで観ました！

「2023年版愛知生活便利帳（英語・中国語版）」及び「相談員のための多文化ハンドブック＝社会福祉編＝」を発行しました

３月に、次の冊子を発行しました。

「愛知生活便利帳」は、在留手続きに関することから、労働、結婚･離婚、出産･育児、教育をはじめ日常生活に関する情報、愛知県内の相談窓口一覧などを掲載しています。日本語と外国語が併記されており、外国人の方をはじめ、関係機関の方の指差しツールとしてもご活用いただけます。

「相談員のための多文化ハンドブック＝社会福祉編＝」下巻は障害や高齢、宗教、在留資格に関連する相談対応の制度とポイントがまとめられています。行政機関や市町国際交流協会の相談員など、外国人から相談を受ける方々にぜひ役立てていただきたいです。

各冊子は、当協会のウェブサイトからダウンロードすることができます。
便利帳　（https://www2.aia.pref.aichi.jp/sodan/j/benricho/index.html）
ハンドブック（https://www2.aia.pref.aichi.jp/sodan/j/manual/manual.html）

【問合先】（公財）愛知県国際交流協会　交流共生課　相談担当
電話：052-961-7902　E-mail:sodan@aia.pref.aichi.jp

令和5年度(第1回)国際交流推進事業費補助金の交付事業が決まりました

今年度の第１回となる国際交流推進事業費補助金の審査会が３月22日（水）に行われ、11件の事業が採択されました。

ウクライナのイースター文化を体験できる事業や、農作物の収穫を通じて日本人と外国人が交流を図る事業などが選ばれました。

採択された団体は、民間国際交流団体が８団体、市町国際交流協会が３団体でした。

外国人と地域住民が交流する機会を作ることにより、地域の国際交流や多文化共生の促進、また国際理解や相互理解を普及させることを目的とした素晴らしい事業が、今年度も県内の各地域で実施されます。

ぜひ、多くの皆さまにご参加いただければと思います。

なお、今年度の第２回の募集は、６月を予定しています。

ボランティア向けの研修会＆講座を開催しました

当協会では、毎年当協会や県内市町村・市町国際交流協会のボランティア向けに研修会を行っています。今年度は、３月１日（水）に「災害ボランティア研修会」、３月２日（木）に「ウクライナ語講座」、３月７日（火）に「図書コーナーボランティア研修会」を開催しました。

【災害ボランティア研修会】

メキシコ出身のプロ通訳者、小宮山 ダニエル 國治さんを講師にお迎えして開催しました。第１部は災害時等有事の際の外国人対応、通訳対応についての講義、第２部は、英語･ポルトガル語･スペイン語の災害時の対面通訳と、スマートフォンを使った遠隔通訳練習を行い､32名のご参加をいただきました。

講義では、「通訳の目的は何を言っているかではなく、コミュニケーションを成立させること。災害時は、通訳の在り方も変わります。有事の際は無駄をなくし、とにかく冷静でいることが大切です」という講師の言葉が印象的でした。また、台風の時の情報提供窓口や消防隊員との会話の通訳練習をしましたが、参加者からは「臨場感のある経験ができて、大変考えさせられた」、「実際の現場の状況をリアルに感じることができた」などのお声をいただきました。

▲外国人と市役所職員、通訳者の３者間通訳の練習を行いました

【ウクライナ語講座】

講師は在日17年、ウクライナ出身のビタリー･ベレジヌィイさん。前半は、ウクライナの歴史や文化、後半は、簡単なウクライナ語という内容で、12名のご参加をいただきました。

講座では、シェフチェンコなど、「～エンコ」と最後につく名前は、ほぼ100%ウクライナ人ということ、ウクライナ人も元々ロシア語が上手な人がいることなど、ウクライナについての豆知識などを学びました。

参加者からは、「講師の話からウクライナ人が必ずしもロシア語を忌避しているわけではないと分かった」、「タイムリーな題材で視野が広がった」などの感想がありました。

▲ウクライナ語会話のデモンストレーション（講師は右）

【図書コーナーボランティア研修会】

図書コーナーに外国人の利用者が増えたことをふまえ、愛知県国際交流員のライアン・ギルブライトさんを講師に迎え、「図書コーナーで使う英会話」を教えていただきました。15名の参加者には、とにかく英語を発話してみることにチャレンジしていただきました。皆さん熱心に練習されており、「『習うより慣れろ。』で英語を使ってみます」との声がありました。

後半は、交流会で、「私の一押しの本」を参加者全員が発表しました。普段、会う機会のないボランティアさん同士、本を通じて良い交流になったと好評でした。

それぞれの講座や研修会で、参加者の皆さんが、今回学んだことを今後のボランティア活動に少しでも役立てていただけたら幸いです。

▲講師の後に発話するボランティアの様子